

## 河川分科会河川整備基本方針検討小委員会報告

(鈴鹿川水系、梯川水系、新宮川水系)

### ●小委員会開催

- ・ 鈴鹿川水系:2月15日、2月28日
- ・ 梯川水系及び新宮川水系:2月21日、3月18日

### ●各水系に関する主な委員意見、質問とこれに対する対応、説明

#### ○ 鈴鹿川水系

(危機管理)

- ・【質問】鈴鹿川が氾濫して石油コンビナート地帯が浸水した場合に備えて、各事業者がどのような備えを行っているのか、また、河川管理者としての危機管理をどう考えるか。
- ・【説明・対応】各事業者が石油の流出拡大防止のための防油堤の設置や防災訓練等を実施しており、国及び地方公共団体は、「三重県石油コンビナート等防災計画」を策定し、防災体制の確立等、行政機関が処理すべき事務や業務を規定している。これらは、地震・津波対策を重点的な対応としており、河川氾濫による危機管理対応は不十分である。このため、河川管理者の今後の対応として、各種会議で河川氾濫による浸水被害の危険性について

情報提供を行い、防災に向けた取組みを働きかけるとともに、洪水氾濫等による災害や石油コンビナートの被災による危険物質の流出など重大な二次災害から貴重な生命、財産を守り、地域住民が安心して暮らせるよう河川等の整備や維持管理に努める旨の説明があり、本文に記載することとした。

#### (樹木管理)

- ・【質問】マダケ・メダケの群落が発達しており、在来種ではあるが、ある程度コントロールがしているのか教えて欲しい。また、ツルヨシは、繁茂して川の河床を動かなくしているケースもある、人為的にコントロールするのが良いかどうか教えて欲しい。
- ・【説明】治水上支障のある区間に繁茂するマダケ・メダケは、河川環境に配慮しつつ、段階的に伐開を行う。治水上支障のある区間に繁茂するツルヨシは伐開し、河道掘削を行うことで必要な流下能力の確保を図るとともに、ツルヨシ群落の繁茂による河床の固定化への影響については、モニタリングを実施する。

#### ○ 梯川水系

#### (河道計画)

- ・【質問】基本高水のピーク流量について、既存洪水調節施設の有効活用、引堤及び河道掘削により処理が可能なのかどうか、具体的に説明して欲しい。

・【説明】基本高水のピーク流量1,700m<sup>3</sup>/sに対し、河道で処理する流量1,000m<sup>3</sup>/sについては、最下流部の引堤、その上流の分水路整備および引堤、河道掘削を順次実施し、段階的に水位低減を図ることとし、洪水調節施設で処理する700m<sup>3</sup>/sについては既設ダムの有効活用及び新規洪水調節施設の整備等により処理する方針である。

・【質問】一般に大規模な河道掘削等を行うと、その後土砂が堆積する傾向になる。梯川の下流部では計画高水流量を流下させるため、引堤とともに相当量の掘削を想定しているが、この区間で土砂は安定するのか。

・【説明】上流の既設ダムの比堆砂量を見る限り、梯川はわが国でも比較的、土砂生産量が少ない河川に分類されることなどから、維持が困難なほどの土砂堆積は起こらないものと想定している。しかし、支川からの流入土砂量のデータが不足するなど、土砂移動機構の解明は十分ではないことから、今後とも経年的な河床変動や洪水時の水面形等のモニタリングを継続しつつ、治水上安定的な河道の維持に努める。

## ○ 新宮川水系

### (河道計画)

【意見】河口砂州について、どの程度の流量でフラッシュされるのか、水位と流量の関係等を示すデータを見て、今までどのような現象が起こっていたのか説明すべきとの意見がありました。

- ・【説明】これまでの洪水で水位と流量の関係を確認したところ、概ね 6,800m<sup>3</sup>/s～9,500m<sup>3</sup>/s で河口砂州がフラッシュされていたと推定される。今後、水位計を増設し、洪水時の水面形の把握を行い、河床の変動状況等を推定し、河道計画等の基礎資料とする。

(土砂管理)

- ・【意見】旭ダムでは排砂バイパスを通じて、大きな石を含め土砂を下流に流している。土砂管理上、示唆に富む施設なので、その内容を説明すべき。
- ・【説明】関西電力が整備した旭ダムでは、①ダム貯水池内での堆砂の抑制、②濁水長期化の抑制、③下流環境の改善等を目的に排砂バイパスを整備した。運用を開始した平成 10 年以降には、ダム建設前の河床高に戻る傾向が見られ、大きく露出していた岩の周りに、中小砂礫が流れ込み、下流河川の環境が回復するとともに、濁水の長期化も軽減している。

河川整備基本方針検討小委員会名簿  
鈴鹿川、梯川水系、新宮川水系

委員長	福岡捷二	中央大学研究開発機構教授
委員	綾日出教	(社)日本工業用水協会顧問
委員	池淵周一	京都大学名誉教授
委員	石島操	全国森林組合連合会代表理事専務
委員	入江登志男	(財)給水工事技術振興財団専務理事
委員	上河潔	日本製紙連合会常務理事
委員	岸井隆幸	日本大学理工学部教授
委員	北出隆一	(財)石川県消防協会会長(小松市消防団団長)
委員	木本凱夫	元三重県大学生物資源学部助教授
委員	楠田哲也	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
委員	小池俊雄	東京大学大学院工学研究系社会基盤学専攻教授
委員	坂本弘道	(社)日本水道工業団体連合会専務理事
委員	佐藤準	全国土地改良事業団体連合会専務理事
委員	谷田一三	大阪府立大学大学院理学系研究科生物学専攻教授
委員	辻本哲郎	名古屋大学大学院工学研究科教授
委員	中川一	京都大学防災研究所流域災害研究センター教授
委員	松田芳夫	中部電力(株)顧問
委員	虫明功臣	福島大学理工学群共生システム理工学類教授
委員	森誠一	岐阜経済大学経済学部教授

- 委員 森田昌史 (財)日本水土総合研究所理事長
- 委員 渡辺寛 皇學館大学文学部教授
- 委員 谷本正憲 石川県知事  
(代理) 植田剛史 石川県参事
- 委員 西川一誠 福井県知事  
(代理) 中安正晃 福井県土木部長
- 委員 野呂昭彦 三重県知事  
(代理) 宮崎純則 三重県県土整備部流域整備分野総括室長
- 委員 荒井正吾 奈良県知事  
(代理) 木谷信之 奈良県土木部長  
徳元真一 奈良県土木部河川課長
- 委員 仁坂吉伸 和歌山県知事  
(代理) 鈴木俊朗 和歌山県県土整備部  
河川・下水道局河川課長

